

◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

—2025年1月7日第158号—

<目次>

※年頭のご挨拶

●台風19号水害から6年目、結審に向けて

◆川崎市でも、補聴器助成制度の創設をめざす

▼等々力緑地を守る～今年が正念場～

▲お知らせコーナー

①新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり方針(案)に関する意見募集中

②1/10 川崎労連旗開き

③1/25 ゆめシネマ「MINAMATA」

④3/23 原発ゼロへのカウントダウン in かわさき

⑤メルマガへの寄稿募集

★編集後記

※年頭のご挨拶

2025年、あけましておめでとうございます。

メルマガ「新しい川崎」は、2022年元旦創刊から丸3年が経過し、今回の158号で4年目を迎えました。

読者のみなさんの支援に心より感謝いたします。

いよいよ今年の秋には、川崎市長選挙が行われます。

市政の主人公である市民が、くらしの困難を少しでも変えるために何が必要かを考え、話し合い、打開の方向を作り出す場面、それが、市長選挙です。

昨年は、川崎市が誕生して100年目でした。

100年の歴史の中では、産業都市としての発展と同時に「川崎公害」は多くの市民を苦しめました。

その克服のために立ち上がった市民は、「青い空と白い雲」を合言葉に、伊藤革新市政を誕生させました。

革新市政は、市民にやさしい施策を積み重ねました。

「子育てするなら川崎」と市民も生活の中で実感し、明日への希望を持つことができたのです。

しかし、100年目の昨年、学校給食無償化を求める市民の運動の中から「多摩川格差」という言葉

が生まれ、広がりました。

多摩川を超えて東京へ行けば、子ども医療費は18歳まで無料、学校給食は中学校まで無償、都立だけでなく私立高校の授業料もほぼ無料、そして、第2子保育料も無償、…と調べれば次々と「多摩川格差」が広がっていきます。

今秋の川崎市長選は、「多摩川格差」の流れを反転させる絶好の機会です。

そして、『#チェンジ川崎』のためには、「つながる・つなげる」市民の運動が、明日への希望を開くのではないのでしょうか。

メルマガ「新しい川崎」は「つながる・つなげる」市民の運動の発展をめざして、読者のみなさんとともに、毎号毎号の前進を続けていきます。

よろしくお願いいたします。(H)

●『#チェンジ川崎』私の願い ④

台風19号水害から6年目、結審に向けて

川崎市が市内の5つの樋管ゲート(宇奈根、二子、諏訪、宮内、山王樋管)を閉めなかったことにより2000件もの浸水被害を出し、原告96名、賠償請求額も5億円を超える規模で市を相手取って訴訟を起こしています。

この裁判の争点は三つです。

(1) 被告川崎市の代表は？→これは川崎市長と川崎市上下水道管理者を代表とする

(2) 今回の水害に川崎市に責任はあるか？→総合的な判断として排水樋管ゲートは閉めるべきであったことは明らかになってきた。

(3) 損害賠償はどこまで認められるか？→共通慰謝料として100万円、憲法13条平穏生活の侵害として原告すべての被害実態を訴える陳述書を提出。

家財損額の基本主張としては当初証拠を積み上げての個別損害の立証を行ってきたが、2022年の鬼怒川水害訴訟水戸判決では家財損害については包括的損害額の計算方法を採用されたこともあり両者を併用して行っている。

現在裁判は10人の代表的なケースでの原告に対する原告尋問が行われており、1月30日(木)14時開廷(13時半に同場所で事前集会)横浜地裁川崎支部で第14回の口頭弁論が行われます。

ぜひ多くの方の裁判傍聴をお願いします。

また、裁判長に対して「公正裁判を求める署名」が現在7200名近くの方から寄せられています。この裁判は全国的にも注目されている裁判で、私たち原告団は「謝れ」「償え」「なくせ」の三つの意義の原点を忘れずに今後ともがんばっていくつもりです。

ぜひ多くの方のご支援をよろしくお願いいたします。

船津 了（台風19号多摩川水害川崎訴訟原告団事務局長）

◆『#チェンジ川崎』私の願い ⑤

川崎市でも、補聴器助成制度の創設をめざす

<予算要望での川崎市の回答は？>

社保協の2025年度川崎市予算要望書への「回答」が12月2日付けで出されました。

年金者組合としても重点課題として取り組んできた補聴器購入助成制度の導入については、情勢の進展をまったく無視した従来の「回答」の繰り返しで誠意のないものでした。（以下）

「全国一律の公的補助制度を創設するよう、大都市会議を通じて国に要望しているものでございまして、本市といたしましては、引き続き、国の動向を注視」すると国に責任転嫁する内容です。

国の基準はあくまでも最低限のもので、住民福祉を考慮して上回る施策を実行するのが自治体の役割です。

<補聴器助成制度はなぜ必要か>

「行政機関等の公的窓口などに合理的配慮の一環として、聴覚補助機器等の配備を推進すること」は、2024年4月の改正・障害者差別解消法によって「統一化した基準」があります。

民間事業者含めて「合理的配慮の提供」は義務化されていることです。

「補聴器は医学的かつ専門的な判断に基づいて」使用する。

その専門家の団体である日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会が、2024年秋から「聴こえ8030運動」を推進しています。

「80歳で30dB（聞こえの閾値）の聴力を保つ国民啓発運動であり、全年代に加齢性難聴の周知、聴力検査などの耳鼻科への受診啓発、補聴器装用率の向上を目指すものです。

加齢性難聴者数は1,437万人と推定され、60歳以上の3人に1人、70歳以上の約半数が該当

するとされている。

その一方で耳鼻科受診率は低く、加齢性難聴が疾病であるという認識が不足しているとされる。また、先進国と比較して補聴器装用率もわが国は約 1/3、人工内耳普及率も約 1/2 と低い数字に止まっている」(ケアネット HP より)。

また「補聴器購入助成制度」を創設する自治体は、2024 年 10 月末で 375 自治体に急増(232 自治体は 23～24 年)しています(年金者組合調べ)。

引き続き「補聴器助成を実現する会」(略称:川崎みみの会)に結集し、早期発見・相談体制の確立、助成制度創設に向けて多くの市民のみなさんと取り組んでいきたいと考えています。

坪井盛治(全日本年金者組合川崎市支部協議会事務局長)

▼「#チェンジ川崎」私の願い⑥

等々力緑地を守る～今年が正念場～

ご支援して頂いている皆さん、新年あけましておめでとうございます！

昨年 9 月に等々力緑地を守る会が発足して活動が始まり、メンバーもどんどん増えて様々なところで力を発揮して頂きました。

4ヶ月で署名は、オンライン署名を含め、10,000 筆に達しようとしています。

多くの方がそれぞれの地域や会合、行事などの機会にチラシ配りをし、活動を続けた結果だと思っています。

また、若い人たちが新たにインスタグラム、ホームページ、公式ラインも開設し、発信の場が広がっています。

マスコミへの働きかけも続け、市議会各会派にも働きかけ11月議会で複数の議員が等々力をとりあげるなど、市全体にも周知されつつあります。

守る会のメンバー全員が、自分にできることを考えて行動に移して、まさに「自分の手で、足で、頭で」動く守る会、となっています。

1 人の力が集まると何十倍にもなる守る会の活動が、今年が正念場ともいえる節目を迎えますが、1 人ひとりの思いを結集して、崩し難く、得体のしれない大きな力に立ち向かっていきたいと思っています。

それでもこの厚い壁を突き崩すには、もう何倍もの運動に広げて行く必要があります。

2 月 16 日に中川勝之弁護士を招いて集会を予定していますが、これを中原区内の多くの団体・

個人に呼びかけて大きな輪にして行きたいと願っています。

小さな波が大きくなうねりとなりますように！
皆さんのお力添えをよろしくお願いいたします。

橋本稔 吉田房江(等々力緑地を守る会共同代表)

★お知らせコーナー

①新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり方針(案)に関する意見募集中

*意見募集終了日 *令和7年(2025年)1月8日

詳しくはこちら

②川崎労連旗開き

1/10(金)18時30分～20時30分

川崎市総合自治会館ホール(JR武蔵小杉駅から徒歩3分)

連絡先 川崎労連 044-211-5164

③ゆめシネマ「MINAMATA」

1/25(土)かわさきゆめホール

①9時 ②12時 ③15時 ④18時

一般1000円、当日1500円、障がい者学生500円

お申し込み

044-433-3003 ゆめホール

cinema@kawasakiyume.com

④気候危機・水素戦略に関するシンポジウム

日本最大のCO2排出都市・川崎市をどうするのか

1/30(木)エポックなかはら7F大会議室

問い合わせ

044-200-3360(共産党市議団)

ズーム視聴希望の方は以下のアドレスにお申込みください。

<info@jcp-kawasaki.gr.jp>

⑤等々力緑地を守ろう！市民連絡会結成のつどい

公演:公園の木はなぜ切られるのか？

中川勝之弁護士

2/16(日)13:30～16:30

とどろき会館・大会議室

資料代:300円

⑥原発ゼロへのカウントダウン in かわさき

3/23(日)中原平和公園

連絡先

044-211-0121 川崎合同法律事務所

kibounotubasa@gmail.com (かもした)

<https://genpatsuzero.net/>

⑦メルマガへの寄稿募集

メルマガ「新しい川崎」では、いよいよ川崎市長選の年を迎えるにあたり、読者の皆さまの川崎市政への思い、要望、意見などを、1月まで特集したいと思います。

200字から800字ぐらいの原稿を、年賀状のつもりでお寄せください。

(ただし、掲載の判断については、編集部に一任をお願いします。)

→投稿は、info@newkawasaki.jp

★編集後記

新年明けましておめでとうございます。

「NHK スペシャル 新ジャポニズム 第1集 MANGA わたしを解き放つ物語」を観ました。

戦時下のウクライナでは、21歳の女性が「進撃の巨人」の主人公の「海の向こうの敵全部殺せばオレたち自由になれるのか」と激しく問いかけるシーンを自分自身に重ね合わせていました。

戦後日本漫画を牽引した手塚治虫とその仲間たちが作り出す漫画は、どの作品も人間の生き方に向き合っってしっかりとした哲学がありました。

それが日本のマンガのスタンダードになってきたのではないのでしょうか。

人間の連帯、慈しみや愛や友情など多様なテーマを深く掘り下げたものでないと通用しないのが日本のマンガ界で、それが日本の若者を中心とした読者の感性なのだと考えると、希望がわいてきます。

打てば響く(ハズ)。でもどう打てば響くのか。

去年は SNS 選挙が大きな話題になりました。

メルマガには残念ながら、あのような拡散力がありません。

このメルマガが築いてきたのは、市民運動の情報共有と連帯ではないかと思います。

ここをベースにして、X や、インスタグラムを使ってさらに広げていくことが課題ではないでしょうか。

杉並区長選挙で注目された「ひとり街宣」は眼から鱗でした。

杉並では「女性区長を」ののぼりでやっていましたが、川崎でやるとしたら、「公園のみどりをまもる市長」「図書館をまもる市長」「給食を無料化する市長」「巨大物流倉庫を認めない市長」「市民ミュージアムを荻宿につくる市長」「川崎の独自水源をまもる市長」「小児医療費を無料にする市長」「水害から市民をまもる市長」「多摩川格差を解消する市長」などなどいくらでものぼりを作ることができます。

考えているとわくわくしてきます。

「川崎型ひとり街宣」いかがでしょう。(Y)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき！☆☆

配信を希望されない方は以下をクリックしてください。

自動的に登録を解除します。

https://my922p.com/User/cancel_mail/fMwwpqj4/22cbkWQMycQo?mail=talosxxx%40gmail.com

誤って登録解除した場合、以下までご連絡ください。

mailmag@newkawasaki.jp